

future-future



高知県立大学 看護学部

Faculty of Nursing University of Kochi



U.K.
Faculty of Nursing
University of Kochi



学長 南 裕子

高知県立大学看護学部が、学生のご家族の皆様へ「学生生活通信」を送らせていただくことになり、これがその第1号となります。

高知県立大学は、女子のみの大学から男女共学の大学となり、県立大学から高知県公立法人下の大学として、この4月から再出発をいたしました。法人化することで、大学は教育・研究・社会貢献のいずれの分野においても県民や学生の保護者の皆様をはじめとして多くの方々にいままで以上に情報発信をしてご理解をいただく必要が出てまいりました。その意味で、学生たちの学びの状況やキャンパスライフの実情を皆様にお知らせするのは意義深いと考えます。

日本で一番早く開設された本学の看護学部は、60年の歴史のなかで、国内外の臨床現場のリーダー、教育者、管理者、行政者など多くの看護者を輩出してまいりました。看護学部が最も重要視しているのは、健やかなときも、病むときも、苦悩に満ちた日々にも、その人に寄り添うことができる看護者の育成だと思えます。

この通信が大学からの一方通行にならないように、保護者の皆様の忌憚のないご意見がいただけますことを期待しております。



看護学部長 中野 綾美



高知県立大学看護学部は、高知女子大学看護学部の歴史と伝統を礎として、看護学の知を創造し社会のニーズに応える看護専門職者の育成を行っています。看護は、生命を育み、様々な健康レベルにある人々の権利を擁護し、その人らしい生活を営むことができるように専門性を発揮して支援していきます。本学部では、将来、看護師・保健師・助産師・養護教諭として活躍できるように、人々の生き方や価値観を尊重して看護を展開する能力、専門的知識・技術、科学的・倫理的判断に基づく看護実践能力を培っていきます。さらに、社会のニーズを予測し、他職種と協働して問題解決する能力、専門職者としての姿勢、地域の健康生活を創造する能力、国際的見地から看護学の学際的発展を推進する能力を培います。このような能力を4年間で修得できるように、学生さん同士が互いに研鑽できるような教育、学生さんの個性・持てる力を見極め、一人ひとりが力を発揮できるようなオーダーメイドの教育を大切にしています。

事務局長 吉良 正彦



高知県立大学事務局は、経理、広報、庁舎管理や地域貢献等の事務を行う「総務企画課」、入学試験、学生の勉学の支援や就職の相談などを行う「学生課」、図書館の運営などを行う「図書情報課」そして、永国寺キャンパスの管理運営全般を行う「永国寺事務室」で構成されています。

大学教育の裏方として、日々業務に取り組んでいますが、学生さんとの接点はたくさんあります。受講する科目の登録、成績管理、実習、国家試験、留学、就職、奨学金、学生寮、健康管理等に関する事務はもとより、学生さんの日常生活からキャンパスライフ全般について、様々な相談に応じています。特に学生支援の窓口では、気軽に相談できる親しみやすい窓口を心掛けて、同年代の担当者を含めて女性職員を中心に相談にあたっています。

事務局は、単に手続きの窓口だけではなく、大学と学生さんの触れ合いの場として、今後とも開かれた運営に努めてまいります。



1回生



平成23年度、看護学部入学は84名で、そのうち7名が男子学生です。共学化の初年度として、男子学生に対する学内外からの関心が高く、注目もされております。7月には、明るく爽やかなキャンパスライフの様子がテレビで報道され好評でした。

84名の大人数のクラスですが、早々と仲間づくりがすすみ、友好的で協力的なクラスが形成されてきております。また、一人暮らしの学生の不慣れによる自炊生活の負担の声もきかれましたが、徐々に改善されてきております。8月上旬に前期試験を終え、現在は、大学生として初めての夏休みを迎えております。そして、試験結果を気にしつつ、ボランティア活動やアルバイトの経験、前期の振り返りをしながら、後期への準備、成長を目指して頑張っています。

2回生



2回生は、4月に新入生とのバスハイクの企画と運営を行いました。昨年は上級生について歩いていた学生さんたちが、今年は先輩として新入生を温かくもてなし、しっかりと役割を果たしていました。とても楽しいバスハイクで、2回生の優れた企画・運営力を垣間見ました。

学業では、看護に関する専門的な講義や1回生の時よりも高度な看護技術の演習に取り組みました。ハードな前期試験を終えた後、8月22日～9月30日には前半・後半に分かれて看護基盤実習を行いました。看護基盤実習では初めて患者さんを受け持ちます。学生さん一人ひとりが自分の課題と向き合い、悩みながらも、患者さんにとって必要な看護は何か模索し、学んだ看護技術を実践しました。学内で見る2回生とはちょっと違って、きりりとして、とても素敵でした。

3回生



看護学部では、やりがいのある将来の進路を選択できるよう、医療系就職ガイダンスを開催しております。まず、全学年を対象に「こんな人材を求めています」就職、そしてその後のキャリアアップ」と題し、高知医療センター教育担当副科長と専門看護師として活躍していた本学教員の講演があり、その後、3回生を対象に「ここが知りたい私の就職活動」をテーマに看護師、保健師、助産師、養護教諭として活躍されている5名の先輩を迎え、具体的な質問に答えていただきました。迷いのあった学生も、「どういうことを把握しておけばいいのかということがわかった」と、今後の進路を考えるうえで参考になり、また先輩方との交流も深めることができました。

4回生



4回生は、学生一人一人が今まで学んできた看護の価値を内在化し、自分が様々な体験を通して大切にしてきたことを統合させながら看護専門職としての自分らしい有り様を見いだしています。一人一人が見いだしたその人らしい看護を携えて、小児看護実習・地域看護実習・養護実習・助産看護実習に取り組み、就職活動に邁進しています。そして、将来の夢に向かって確実に歩んでいます。また、自分が見いだした疑問・課題を探求し、看護実践をよりよいものにするを目指して看護研究に取り組んでいます。これらの取り組みを通して自分自身の力を高めるとともに、クラスの仲間と助け合い、周囲の方々の支援を受けいれる力を培っています。



■ 教育の工夫

平成23年4月、看護学部では、7名の男子を含む84名の新生を迎えました。共学化という新たな環境の中において、看護専門職者の育成については、本学部では少人数制の教育的支援を変わることなく今まで引き継いでいます。女子学生に対する支援はこれまで同様に、一方、男子学生には、違和感なくクラスに溶け込み、キャンパスライフを楽しく送ることができるように、入学の早い時期に、特に男性教員との交流を図り、看護学生時代の体験や一人暮らしの工夫などについて語ってもらい、慣れるまでの間、男性教員からもフォローが受けられるようにしました。



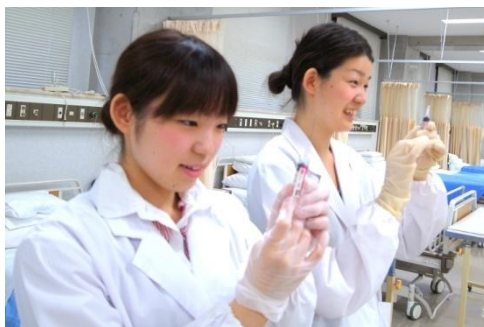
また、カリキュラムの特殊性を鑑み、学部生全体に対する配慮として、学習環境の整備にも取り組み、男子実習室及び男子学生ロッカー室の設置を行いました。そして、クラス運営では、1回生84名全員が各種委員の役割を担うとともに学部全体の行事にも参画し、個人として集団として主体的な活動がとれるように、学年担当教員3名を中心に支援しています。今後も看護学部全教員、学生さんの成長をみまもって参りたいと思います。



■ 学生さんからのメッセージ

私達は今回の病院実習において、患者さんの個性を尊重した看護援助について学ぶことができました。患者さんは1人1人異なった疾患をもって入院されていて、また入院前までの生活状態や生きてきた時代背景、価値観なども様々です。私達は患者さんとのコミュニケーションや、周囲やカルテなどからの情報収集によって患者さんの個性をいち早く見だし、患者さん1人1人に合わせた援助を行っていくことが重要であり、またそれが患者さんの自尊心を尊重するという事に繋がっていくと考えます。

2回生 下村 梨沙



3回生から取り組んできた卒業研究も大詰となり、グループの仲間と日々活動をしています。初めての研究で行き詰まることもあります。先生方から助言をいただき、仲間と励まし合いながら、3月に開催される卒業研究発表会に向けて進めています。卒業研究を進めながらも、私たち4回生は、就職活動に励んだり、国家試験の勉強に取り組んだりしています。研究や実習など、様々なことが重なる日々ですが、私たちは仲間と共にひとつずつ乗り越えてきています。看護学生4年間の学びを自分の力にし、残りの学生生活も充実したものにしていきたいと思っています。

4回生 奥田 千尋

【ニュースレターの名前の意味】fure-fure 学生さんを応援する気持ちを込めて、学生さんが、誰かを応援できるように願いを込めて、この名前を付けました。

ご意見、ご感想など、お寄せ下さい。 fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp